



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 関門海

コード番号 3372 URL <http://www.kanmonkai.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 正

問合せ先責任者 (役職名) 経営支援部シニアマネージャー (氏名) 田淵 広宣

TEL 06-6578-0029

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	3,504	△3.1	△72	—	△117	—	△117	—
26年3月期第3四半期	3,614	△6.3	△110	—	△160	—	△190	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 △117百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 △190百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△12.40	—
26年3月期第3四半期	△20.47	—

当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式を分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	4,577	167	3.7
26年3月期	4,302	189	4.3

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 167百万円 26年3月期 183百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	4.2	240	87.3	160	168.9	80	—	8.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、平成26年9月30日を払込期日とする第三者割当増資による発行株式数(582,300株)および当第3四半期会計期間における新株予約権の行使による発行株式数(17,600株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.3「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期3Q	10,208,900 株	26年3月期	9,609,000 株
----------	--------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年3月期3Q	302,000 株	26年3月期	302,000 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	9,506,099 株	26年3月期3Q	9,307,000 株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成25年10月1日付けで株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.2「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融政策により企業収益の改善や設備投資の増加がみられ景気は緩やかな回復傾向にある反面、円安による原材料価格の上昇や海外景気の下振れ等の懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、消費税増税等や消費者の食に関する安全意識の一層の高まりなどによる生活防衛意識は依然として強く、雇用情勢が改善傾向にある事によりパート・アルバイトの時給高騰やそれに伴う人員不足も顕著化しており、企業を取り巻く環境は引き続き厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における当社グループは、「玄品ふぐ」事業への原点回帰を柱とした中期経営計画の最終年として、収益体質の更なる確立を行うべく、引続き店舗現場力の強化等、事業全般の収益力の強化を実施してまいりました。

特に「徹底した人材育成」「徹底した情報発信」「新商品開発の継続」を3本柱として、パート・アルバイトを含めた全従業員を対象にした階層別の研修、自社ECサイトのオープン等のオフィシャルホームページの更なる充実、季節ごとの期間限定コースメニュー等、様々な施策を実施してまいりました。

主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」につきましては、冬季における需要が大きく、当第3四半期連結累計期間は閑散期が長いことから厳しい環境下にあります。

そこで、閑散期である夏季から引き続き、新規顧客の開拓を中心とした法人営業を行い、繁忙期に再度ご来店頂けるよう販売促進活動に注力し、忘年会・新年会のご予約増加に繋げました。また、好評を得ておりました期間限定メニューの「秋津膳」に続きフリードリンク付きの「冬安居」もご好評頂いております。その他にも全従業員を対象にした研修、毎月29日（福「ふぐ」の日）にご来店頂いたお客様へお贈りする「福土産」の実施、老朽化した店舗の改装等、お客様がまた来たいと思える店創りに努めました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における直営店舗数は、前連結会計年度末から3店舗増加し48店舗（関東地区31店舗、関西地区13店舗、その他地区4店舗）、当第3四半期連結累計期間の「玄品ふぐ」直営店舗の売上高は2,075百万円（前年同四半期比5.3%増）となり、前年同四半期を104百万円上回りました。フランチャイズ店舗数は、前連結会計年度末から4店舗減少し42店舗（関東地区17店舗、関西地区25店舗）となり、フランチャイズ事業に関連する当第3四半期連結累計期間の売上高は、とらふぐ等の食材販売、ロイヤリティ等により405百万円（同比6.7%減）となり、フランチャイズ店舗における店舗末端売上高は1,074百万円（同比0.4%増）となりました。

「玄品ふぐ」以外のその他の店舗につきましては、連結子会社である株式会社関門福楽館が運営する「壇之浦パーキングエリア」においては、魅力あるディスプレイの演出、地域と連携した観光客や団体客の誘致等に努めましたが、関門橋工事の影響による車線規制による入場車両の減少、パーキングエリア内駐車場縮小、ETC割引制度の縮小及び台風等の悪天候による通行量減少等により、売上高が減少いたしました。また、7月に連結子会社である株式会社だいもんが運営する回転寿司「すし兵衛」において、業績が悪化していた最後の1店舗を閉鎖することにより、収益改善を図りました。その結果、その他の外食店舗の店舗数等は、前連結会計年度末から2店舗減少し12店舗となり、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,023百万円（同比15.4%減）と前年同四半期を大きく下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,504百万円（同比3.1%減）となり、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」が閑散期であることが影響し、営業損失72百万円（前年同四半期は110百万円）、経常損失117百万円（前年同四半期は160百万円）、さらに「すし兵衛」店舗閉鎖等の影響により特別損失を計上したこと等により、四半期純損失117百万円（前年同四半期は190百万円）となりました。

なお、事業の特性上、繁忙期は11月からとなることから、当第3四半期連結会計期間においては、売上高1,749百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益283百万円（前年同四半期比15.1%増）と黒字を確保しております。

当社グループは、主力事業であるとらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の季節的変動が大きいことにより、四半期毎の業績に大幅な変動があります。

当社グループは店舗運営事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して275百万円増加し、4,577百万円となりました。これは主にたな卸資産の増加319百万円、売掛金の増加81百万円の増加要因はあったものの、現金及び預金の減少144百万円等の減少要因によるものです。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して296百万円増加し、4,410百万円となりました。これは主に借入金の増加134百万円、買掛金の増加94百万円、未払金の増加66百万円等の増加要因によるものです。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して21百万円減少し167百万円となりました。これは主に四半期純損失の計上による利益剰余金の減少117百万円、平成26年9月30日に実施いたしました第三者割当増資等による資本金及び資本準備金の増加101百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年3月期の業績予想につきましては、平成26年5月15日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,116,927	971,967
売掛金	164,052	245,696
商品及び製品	1,118,937	1,440,188
原材料及び貯蔵品	14,954	13,404
繰延税金資産	72,960	116,820
その他	121,019	124,677
貸倒引当金	△7,337	△7,449
流動資産合計	2,601,514	2,905,303
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	826,480	800,809
その他(純額)	175,226	180,711
有形固定資産合計	1,001,706	981,520
無形固定資産		
その他	5,937	14,311
無形固定資産合計	5,937	14,311
投資その他の資産		
差入保証金	668,394	652,849
その他	38,988	37,719
貸倒引当金	△13,933	△13,933
投資その他の資産合計	693,449	676,635
固定資産合計	1,701,093	1,672,467
資産合計	4,302,608	4,577,770
負債の部		
流動負債		
買掛金	131,241	226,021
短期借入金	1,352,293	1,496,069
1年内返済予定の長期借入金	2,104,107	2,180,980
未払金	246,548	313,064
未払法人税等	16,851	24,748
賞与引当金	38,424	17,842
その他	32,627	43,599
流動負債合計	3,922,093	4,302,325
固定負債		
長期借入金	133,027	47,144
その他	58,412	60,763
固定負債合計	191,439	107,907
負債合計	4,113,533	4,410,233
純資産の部		
株主資本		
資本金	596,896	647,711
資本剰余金	705,893	756,708
利益剰余金	△831,018	△948,903
自己株式	△287,980	△287,980
株主資本合計	183,790	167,537
新株予約権	5,284	—
純資産合計	189,075	167,537
負債純資産合計	4,302,608	4,577,770

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	3,614,694	3,504,238
売上原価	1,247,255	1,113,825
売上総利益	2,367,439	2,390,412
販売費及び一般管理費	2,477,778	2,462,696
営業損失(△)	△110,338	△72,283
営業外収益		
受取利息	1,293	392
受取地代家賃	4,950	4,950
消費税等免除益	—	10,393
その他	12,529	1,840
営業外収益合計	18,772	17,576
営業外費用		
支払利息	54,294	52,203
増資関連費用	—	4,949
その他	14,939	5,927
営業外費用合計	69,233	63,080
経常損失(△)	△160,799	△117,788
特別利益		
固定資産売却益	954	1,865
新株予約権戻入益	23,553	5,284
特別利益合計	24,508	7,150
特別損失		
固定資産売却損	181	1,111
店舗閉鎖損失	56,592	2,100
減損損失	44,021	13,576
解約違約金	—	10,716
特別損失合計	100,795	27,503
税金等調整前四半期純損失(△)	△237,087	△138,141
法人税等	△46,544	△20,257
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△190,543	△117,884
四半期純損失(△)	△190,543	△117,884

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△190,543	△117,884
四半期包括利益	△190,543	△117,884
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△190,543	△117,884
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成26年9月30日付でサントリービア&スピリッツ株式会社(現サントリー酒類株式会社)から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が49,495千円、資本準備金が49,495千円増加したこと等により、当第3四半期連結会計期間末において資本金が647,711千円、資本剰余金が756,708千円となっております。